

## Windows 10 におけるパッチ管理方法

Windows の最後のバージョンと言われる Windows 10。従来の Windows OS はバージョンアップが数年に 1 回の頻度でしたが、Windows 10 では年に 2 回の頻度になりました。そのため、企業の IT 資産管理では、Windows バージョンアップの運用を大きく変更しなければならなくなりました。

今回は Windows 10 のパッチ管理に着目し、その具体的な方法をご紹介します。

### 内容

パッチ管理の重要性	2
Windows 10 におけるパッチ	2
パッチの種類	2
サービスチャネル	2
Windows 10 パッチ管理のポイント	3
パッチ更新対象端末を把握する	3
端末のディスク空き容量を把握する	3
端末のドライバ情報を把握する	3
アプリケーションの互換性を確認する	3
効率的なパッチ管理を補助するツール	4
終わりに	4

## パッチ管理の重要性

システムにおけるパッチとは、システムの不具合やバグを修正するためのプログラムのことです。このパッチを最新化せずに使い続けると、システムを不具合がある状態で放置することとなり、セキュリティホールになるリスクがあります。パッチを最新化することは、セキュリティを保つ上で重要なことです。

これは個人、企業問わず共通しているセキュリティ対策です。特に企業の場合は、何百、何千の従業員がシステムを利用しているため、適正かつ効率よいパッチ管理が求められます。

## Windows 10 におけるパッチ

Windows 10 は、従来の Windows OS とは異なり、バージョンアッププログラムが年 2 回提供されるようになりました。また、OS のサポート期間にも変更が加わっています。

### パッチの種類

パッチの種類には以下の 4 種類があります。

- Feature Update : 新しい機能を追加。年 2 回、春期と秋期に配布
- Quality Update : 新しい機能を含まない。毎月配布
- Security Update : セキュリティ関連。臨時に行われることがある
- Servicing Stack Update : 更新プログラムをインストールするコンポーネントの更新。随時提供

### サービスチャネル

Windows 10 にはサービスチャネルという概念があります。これは用途が異なる端末に適した Windows 10 のパッチを提供するために用意されたものです。

サービスチャネル	旧名称	内容	サービス期間
半期チャネル Semi-Annual Channel (SAC)	Current Branch for Business (CBB)	半年に 1 回 Feature Update が存在。一般用途での利用を想定されたモデル。18 ヶ月の間サポートが保証され、この期間内は Quality Update 等のパッチが提供される。	Feature Update 提供 から 18 ヶ月
長期サービスチャネル Long-Term Servicing Channel (LTSC)	Long- Term Servicing Branch (LTSB)	POS 端末や医療装置等の特殊用途での利用を想定されたモデル。Feature Update が存在せず、Quality Update、Security Update のみの提供。2~3 年に一度新バージョンが提供される。	提供から 10 年

LTSC の場合、サポート期間が 10 年間あるため、パッチ管理も楽にできると受け取られるかもしれませんが。しかし、Microsoft Office や Adobe 製品など、一般に普及しているソフトウェアに対応しない場合があります。サポート期間だけでなく、利用用途に応じてサービスチャネルを選択することが重要です。

## Windows 10 パッチ管理のポイント

Windows 10 の SAC を利用する企業は、どのようにパッチ管理を行うべきでしょうか。SAC は半年に一度 Feature Update が提供され、18 ヶ月という短いサイクルで更新を繰り返していかなければなりません。

### パッチ更新対象端末を把握する

まず行うのは、パッチ更新の対象となる端末を把握することです。Windows OS の端末台数、OS のバージョン情報、を確認します。Windows 10 に限らず、どのソフトウェアにもいえますが、パッチ管対象システムの端末台数と現状のバージョン情報を把握できなければ、アクションが取れません。

### 端末のディスク空き容量を把握する

次に、各端末のディスク空き容量を把握します。Feature Update の場合、プログラムサイズは数 GB に及ぶため、ディスクの空き容量を約 20GB ほど用意する必要があります。対象となる端末の空き容量を確認し、不足している場合は、空き容量を確保しなければなりません。

### 端末のドライバ情報を把握する

過去事例で、Feature Update を更新したら、有線 LAN が使えなくなる問題が起きました。この原因は、適用した Feature Update のバージョンが、有線 LAN ドライバの動作保障外であったためでした。

ドライバ製造元の Web ページには Feature Update の対応可否について情報を載せています。対象となる端末のドライバ情報を把握し、各社の Web ページから事前に Feature Update に対応しているか確認することが重要です。

### アプリケーションの互換性を確認する

ドライバだけでなくアプリケーションの互換性を確認する必要もあります。ドライバ同様、製造元の Web ページに情報を載せているので、確認することをお勧めします。これを怠ると、Feature Update を適用したあと、業務上重要なアプリケーションが動作しなくなり、業務が止まることがあります。最悪の場合、Windows OS のバージョンを適用前のものに戻さなければならなくなります。こうなると、対応時間が膨大になり、IT 部門担当者だけでなく、全

てのユーザーの業務にまで影響が出てしまいます。事前に、複数台でテストしたり、情報収集したりすることが重要です。

ここまで終わったら、対象端末に対して Feature Update を適用します。Windows Update は、何も制御をかけていないと自動で行われます。IT 部門の管理者が、適用のタイミングや方法を管理することが求められます。

### 効率的なパッチ管理を補助するツール

このパッチ管理の業務を、全てを一元的にできるのが IT 資産管理ツールです。当社の取り扱い製品では、統合 IT 資産・セキュリティ管理ツールである Ivanti が、これにあたります。

### 終わりに

当社は、2006 年より Ivanti（当時名称：LANDesk）を手掛け、提案、導入構築、アフターフォローを行っている Ivanti ゴールドパートナーです。海外にも事業展開する大手企業様に対し、多数の導入実績があります。

また、広範なセキュリティ対策製品により、ネットワークインフラからエンドポイントまで、お客様のニーズに応じた包括的なソリューションを提供しています。

IT 資産管理、セキュリティにお悩みの際は、お気軽にご相談ください。

【統合 IT 資産・セキュリティ管理ツール：Ivanti】 <https://www.tdi.co.jp/ivanti/>

【セキュリティソリューション】 <https://www.tdi.co.jp/category/security>

【当社・取り扱い製品へのご意見・ご質問・お問い合わせ】 <https://www.tdi.co.jp/inquiry/>